

成長の未来図

識者に聞く ③

ロート製薬は創業120周年を迎えた2019年、心身の健康や幸福などを意味する「ウェルビーイング」を経営ビジョンに取り入れた。社員一人ひとりの幸福感や熱意は企業の業績や成長にどう影響するのか。創業家出身の山田邦雄会長に話を聞いた。

——近年、ウェルビーイングの概念を経営理念やビジョンに掲げる企業が急増

ロート製薬会長 山田 邦雄氏



やまだ・くにお 1979年東大理卒、80年ロート製薬入社。99年に社長に就き、新規分野だった化粧品に注力し、主力事業に転換した。19年から現職。

社員の副業、挑戦心に点火

か。

「人への投資は社外からは見えないところもあると思うが、投資家にも一貫して中長期の視点で当社を見てほしいと伝えている。今まさに『株主第一主義』からの転換がうたわれているが、株主には適度に還元するのほうがいいのではないかと考える」

——働きがいや幸福度の高い企業は業績が良好だという研究も増えています。ことに取り組めるはずだ。「合理的に考えればそうだろう。問題意識を常に持って、向上心のある人がたくさんいる組織の方が成長するし、業績が良いに決まっている。先進的な企業は社員が楽しみながら働き、成果を出すようになってきた。日本の従来型の企業もそうになっていけばいい。工業的な価値観から転換できるかどうか問われている」

しています。

うになってほしいという思

「当社では社員の幸福は歴代の社長が意識しており、『働く人の幸せなくして良い製品なし』を貫いてきた。社員の幸福とあわせて、自

「当社には色々なプランがあるが、基本的には営業活動や開発などの工」

「何のために働くのか、働くことでどう自分を高めたいのかを意識し、向き合っ」

「いち早く副業も解禁しました。人材投資の重要性が増しています。株主還元と増している。株主還元と

（聞き手は井上孝之）